

▼「障がい」を考える小委員会 ▲

障がい者、牧会者各交流会の交互開催を決定

6月24日、第38回総会期「障がい」を考える小委員会が教団会議室にて開催された。加藤幹夫（阿漕）、W・ジャンセン（東京神学大学）、上竹裕子（磐城）、森田恭一郎（遠州栄光）、

中村英之（熊本城東）、藤盛勇紀担当幹事が出席し、加藤委員長の開会礼拝の後、書記に上竹委員を選任した。

前総会期からの申し送り事項として①病と障がいの理解を深めていくこと、②4年に一度の全国交流会を2016年度に開催できるように努め、そのための献金を継続すること、③「障がい」に関する情報発信を継続することを確認した。

特に、牧会者とその家族のメンタルケアの問題について、牧会者とその家族の相談室設置や交流会開催が議論されてきた経緯についての話し合いを深めた。教会と牧会者、その家族のコミュニケーションの課題があり、牧会者が悩むケースに加えて、パワーハラスメントやDV等、牧会者が加害者となるケースについても対応できる相談室の重要性を話し合った。この課題については、次回委員会で

さらに学びを深めることと、次に、今後の交流会の計画について話し合い、2年ごとに障がい者交流会と牧会者交流会を交互に開催することを決定した。交流会は、参加者同士の励ましとなり、具体的な課題が見えてくる貴重な機会ともなる。2014年9月2日、3日、戸山サンライズにて、《第4回「障がい」を考える全国交流会―牧会者ならびにその家族の精神的なケアを考える》を開催予定。内容は、ホームページの更新、具体的な課題の共有、本委員会はホームペー

ジ上で、障がいについて、教会での取り組み等を紹介している。《http://ncj.org》今後、障がい者やその家族、教会と情報を共有し、共に考えることのできる場として周知され、活用されるよう内容を充実させる。ホームページ担当に中村委員を選任した。障がいを抱えながらも福音の喜びに生きるための手助けとなるメッセージや情報を発信していくことを確認した。（上竹裕子報）

共に考えることのできる場として周知され、活用されるよう内容を充実させる。ホームページ担当に中村委員を選任した。障がいを抱えながらも福音の喜びに生きるための手助けとなるメッセージや情報を発信していくことを確認した。（上竹裕子報）

来年度の教育プログラムについて検討した。総主題と教会教育の目標について7月の小委員会にて検討する。各教区青年担当者は9月2日、3日に札幌教会で行う。そのプログラムや委員の役割分担について検討した。

教会教育セミナーは1月27日午後7時から教団会議室で行い、28日の午前中は東京近辺にあるキリスト教の学校訪問をする。同日、青山教会での第4回教育委員会開催を予定している。キリスト教教育主事認定試験小委員会の報告を受けた。3月6日、7日に大阪

14年8月開催、青年大会につき協議

推進室発足記念大会などの集会の記事が載せられるべきこと、取材リートを提供する必要もあることが報告された。今期伝道委員会の重要課

題の青年伝道につき、青年大会に関する報告が高委員、山元克之委員からなされた。大会は、日時2014年8月19日、会場・御殿場YMCA東山荘。将

で発題者をたて協議する。開拓伝道援助応援を実施した教会（西中国教区・光教会、東北教区・本宮教会、西東京教区・八王子ベテル

教会で開催予定。次回は2013年9月9日、関東教区・矢板教会で開催予定。（成田いしづる報）



左から、森田、中村、上竹（書記）、加藤（委員長）、ジャンセン、藤盛（幹事）

▼年金局理事会 ▲

「謝恩日献金」参加を呼びかけ

第38総会期第2回年金局理事会が6月20日、21日教団会議室で開催され、教区代表理事、東京教区支区代表を含め28名（九州教区代表出席、沖縄教区欠員）が出席した。

「2012年度年金局事業報告ならびに決算書」および「2014年度年金局財務計画」が審議され、承認された。この2議案は第38総会期第2回常議員会に提議される。

1998年に年金給付額と掛金額の逆転が起こり、その後その乖離はひろがり続けている。その間制度の見直しも実施したが、2012年度には1億1500万円の差があった。年金財政検証によると、この開きは2013年度がピークになるであろうと予想されている。

また、積立金ゼロで開始した教団年金は当初より負を抱え、また長らく超低金利により大きな積立不足が生じた。これらを解消するために、1996年、2003年の2回にわたる対策実施ののち、2006年度に謝恩日献金1億1千万円を提案し、教団総会で承認された。

6年目にあたる2012年度の献金額は4690万円が目標の42%であった。「謝恩日献金の目標達成を実現するために如何にするか」全教団教師が加入すべ

き年金であり、それを全教会が支えるために如何にするか「全教師が加入出来るよう教区が取っている方策」などに関して、全教区代表理事、支区代表の報告がなされ、また討議にかなりの時間を割いた。全教師を全教会で支えるためにも謝恩日献金の参加教会をま

ず増やし、献金の増額をはかりたい。理事たちは未参加教会に強く呼び掛けることとした。（櫻井淳子報）

東日本大震災の被災教区である奥羽教区と東北教区が献金目標達成率で1位と2位である。驚きとともに両教区の取り組み、姿勢に励まされた。

「教団年金の歩み（続）」を発売する予定であるが、その準備もかねて、積立不足に對し何をしてきたかを中心に約2時間掛けて学び直した。

こうした理解を深めることにより、教団年金の重要性、必要性を一同再確認した理事会であった。（櫻井淳子報）

12年度クリスマス献金、震災募金に

6月25日、26日に教団会議室で、第38総会期第2回教育委員会を開催した。委員6名が出席した。まず、前回委員会の議事録を承認した。

次に以下のような報告を受けた。教師の友編集委員会報告、全国教会幼稚園連絡会報告、クリスマス小委員会報告、2012年度クリスマス献金会計報告、教育プログラム小委員会報告、2014年度教会中高生青年大会報告など。

続いて以下のようなことについて協議した。2012年度のクリスマス献金の2014年度、2016

年度の教育プログラムについて検討した。総主題と教会教育の目標について7月の小委員会にて検討する。各教区青年担当者は9月2日、3日に札幌教会で行う。そのプログラムや委員の役割分担について検討した。

教会教育セミナーは1月27日午後7時から教団会議室で行い、28日の午前中は東京近辺にあるキリスト教の学校訪問をする。同日、青山教会での第4回教育委員会開催を予定している。キリスト教教育主事認定試験小委員会の報告を受けた。3月6日、7日に大阪

共に祈り、支えよう！
Let us pray for and support people and the Church together!

「東日本大震災救援募金のお願い」
教会の再建・補修、地域の復興・支援に向けての具体的な取り組みを日本基督教団として支援していくため、祈りと共に「東日本大震災救援募金」にご協力を下さいますよう、お願い申し上げます。

2013年9月
教団救援対策本部長 石橋秀雄

目標額 10億円（国内のみ）
期間 2011年7月1日～2015年3月31日
振替番号 00110-6-639331
加入者名 日本基督教団東日本大震災救援募金
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31

クリスチャンセンターでギフト教育主事認定試験を行う。委員で認定試験の役割分担を決めた。1名か

（有澤慎一報）

から受験資格があるかどうか問い合わせが来ているので、必要な単位の取得または取得見込みがあるか、委員で調べる。

次回第3回教育委員会は9月3日、4日に北広島教会で行う。

次回は2013年9月9日、10日、関東教区・矢板教会で開催予定。

（成田いしづる報）



桃花台伝道所、前川昌之牧師（前列右より2人目）と共に

▼宣教研究所委員会▲

「改訂宣教基礎理論」意見書を読み合わせ

第2回委員会を6月20日
教団小会議室で開催した。

全委員で読み合わせること
から始めた。

今回の委員会では「改訂
宣教基礎理論（第一次草
案）」の検討に集中した。

意見を書き提出した教
区は北海、東京、西東京、
神奈川、東海、中部、西中
国の7教区に留まったが、
賛否両論はもちろん、多種
多様な意見を受け止めるこ
とになった。

その後、種々の意見や提
案などを類別し、項目ごと
に協議、検討した。

その結果、誤字や脱字の
確認と共に、一部修正して
行く必要があることを確認
した。

▼教区活動連帯金検討委員会▲

伝道資金試算、5900万円の規模に

第4回教区活動連帯金検
討委員会は7月30日教団会
議室において開かれた。

今回は、第3回委員会の
方向を踏まえて新たに提案
されることになる「伝道資
金規則」について協議を深
めた。特に、その内容面と
条文の確定、実際の運用に
ついての組織的位置づけ、
更には運用プロセスなど、
具体的裏付けを明確にしよ
うとするものであった。

討委員会は7月30日教団会
議室において開かれた。

（1）「伝道資金規則」の特
徴を一言でいえば、常議員
会の決定に基づいて運用さ
れることにある。これは従
来の教区活動連帯金との決
定的な違いと言える。

また、「伝道資金運用指
針」は毎年度常議員会にお
いて決定され、それに基づ
いて審査がなされる。

（2）これらの例からみられ
ることは、従来の教区活動
連帯金が教規上の位置づけ
もなく、教団総会での報告
義務もない曖昧さの中で起
こってきた諸問題に対する
提起であり、整理すること
にある。

（3）即ち、教規第153条
に基づく負担金化すること
により「伝道資金」として
その性格を明確にしようと
するものである。

従って、教団予算決算委
員会との関連、伝道委員会
との関連等が重要となり、
常議員会の決定に基づいて
進められることが必須要件
となるからである。

（4）では実際に条文に盛り
込まれる。

（5）では実際に条文に盛り
込まれる。



「第一次草案」検討に集中

今期の伝道委員会は、柱の一つ
として「青年伝道」を加えました。
委員会として前期からの申し送り
を受け、継続して
行わねばならない
こと①開拓伝道
援助金及び会堂賃
出金による会堂建
築援助と援助教会
・伝道所訪問、②
『こころの友』応
援伝道及び点字
『こころの友』連
営推進、③教区伝
道委員長会議の実施、④農村伝道
協議会の実施、⑤教誨事業の支援
などがあり、これらの実施だけ
です。

でも大変です。
しかし、今期はもう一歩踏み出
し、多岐にわたる伝道の働きの中
で「青年伝道」に焦点を当てるこ
とにしました。

早速、第1回委員会にて青年大
会実施を協議し、教育委員会と伝
道委員会との連携が図られること
が、長年の申し送り事項により
委員会の実態は形作られていま
す。今期は前期伝道方策検討委員
会の提言を受け、改めて教規に基
づいて委員会使命の再考を行いた
いと考えています。伝道する教団
の形成のため、伝道委員会が意義
ある働きをなすことができるよう
尽力したいと考えています。

（伝道委員長）

委員会「ラム

伝道委員会
伝道する教団形成のため
小林 克哉

道委員長会議の実施、④農村伝道
協議会の実施、⑤教誨事業の支援
などがあり、これらの実施だけ
です。

道委員長会議の実施、④農村伝道
協議会の実施、⑤教誨事業の支援
などがあり、これらの実施だけ
です。

（伝道委員長）

消 息

山田斐章（ひふみ）氏（隠
退教師）



13年7月12日逝去、84歳。
東京都に生まれる。'58年プ
リンストン神学校を卒業。
'60年戸山教会に赴任、11年
まで牧会し、隠退した。遺
族は妻・山田節子さん。

西脇 節氏（隠退教師）

08年6月14日逝去、94歳。
'43年日本神学校本科3年修
了。同年青山南町教会に赴
任、中野若草教会、国立教
会を経て、'82年まで恵泉女
学園に務め、'83年隠退した。
棟方晃彦氏（無任所教師）



13年7月17日逝去、71歳。
兵庫県に生まれる。'68年同
志社大学大学院を修了。同
族は妻・山田節子さん。



13年7月31日逝去、10
0歳。三重県に生まれる。'37
年神戸中央神学校を卒業。
同年田邊教会に赴任、高槻
教会を経て、'96年まで茨木
教会を牧会し、隠退した。遺
族は孫・奥山喜信さん。

事務局報

補教師登録

東 昌吾、齋藤眞理子

（2013.5.13受允）

池内 裕、井田博康、

小林拓哉、阪口 新、

汐庭直美、能勢岳史、

宮本幸男、渡辺眞一

（2013.5.20受允）

鈴木道也

（2013.5.21受允）

大橋 新、仲 義之、

森 容子、梁 眞錫、

安達正樹、佐藤 徹、

濱田真喜人

（2013.5.22受允）

嶋貴佐地子、藤垣昭雄

（2013.5.27受允）

遠藤尚幸、玉置千鶴子、

竹内成子、田中弘子、

中西康之

（2013.5.28受允）

正教師登録

松村さおり

（2013.5.22受按）

田尻かおり

（2013.5.28受按）

教団異動

よきサマリヤ人

就（主）久保礼子

就（主）望月 智

新鴻信濃町辞（主）小淵康而

駒場エデン辞（主）笹森建美

〃 辞（主）川村尚弘

〃 就（主）川村尚弘

世田谷平安就（主）長村亮介

〃 辞（主）笹森建美

〃 就（主）笹森建美

板橋泉 就（主）渡邊義明

千葉本町 就（主）相 徳

宮古島 就（主）平良 修

東海田 就（主）青木麻里子

南大阪 就（主）安井直子

横濱菊名 就（主）戸波義憲

なか 辞（主）渡辺英俊

〃 辞（主）石倉夕子

〃 就（主）石倉夕子

〃 就（主）渡辺英俊

田園都筑 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

〃 辞（主）本多峰子

東京都民 辞（主）亀田正己

〃 就（主）渡辺一

〃 辞（主）高木総平

〃 就（主）高木総平

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司

〃 辞（主）遠藤勇司



マホロバマインズ(神奈川・三浦)にて参加者

日本盲人キリスト教伝道協議会



第38回定期総会が7月15

日、16日、第62回全国修養会が7月16日、17日、三浦市にある「マホロバマインズ」を会場にして行なわれました。2年毎に開かれる総会であり、総数79名、議員数58人の出席でした。

冒頭で逝去者を追悼した後、日高警輔議長(日本聖公会聖アンデレ教会)が今会に至るまでに行なった事業に基づき感想と展望を表明しました。

事業は、盲伝の日(8月7日)の設定、「盲伝の祈り」冊子の作成と、視覚障害者教会在席アンケートを集計し、回答教会に冊子を発送できたことでした。

盲伝が目指すのは、60年記念誌の発行以来歴史の原点を見つめ直して教派を越えた教会が交わりの中で、キリストの宣教を喜ぶことであり、一人一人がこの役割を担っていくことです。

ました。

「機構改革に伴う規約改正の件」では、「時代とともに現状を反映しない組織を、迅速に意思決定ができるものとするため」という改正目的を了承して可決しました。

選挙では、議長には田中文宏(教団真駒内教会)、副議長には大森明彦(日本聖公会浅草聖ヨハネ教会)が選ばれました。新たに加わった理事は桜井淳(日本バプテスト同盟、金子信一(教団湯河原教会)です。

盲伝国際交流部が行なっているパキチャリハビリテーションセンター支援に関して、バンクランドシバプテスト連盟社会開発理事

会(SHEDBOARD)と資産(土地、建物、田んぼ、預貯金)を適正に管理して、視覚障害女性の向上と教育のために利益金を活用することを明記した覚え書きを取り交わすことにし

ました。

同じ場所で全国修養会が開かれました。講演者、森田昭二氏は「失明がわたしに開いたもの」と題して、「盲伝とは歴史である」という観点から盲伝の先達たちの足跡と自分の歩みを語られました。多くの方々が共感と感動を現す発言をし

韓日連合異端対策セミナー

日本基督教団「統一原理

問題全国連絡会」及び超教派で構成する「統一協会問題キリスト教連絡会」と大韓イエス教長老会(PCK)

「異端似而非対策委員会」とによる「韓日連合異端対策セミナー」が6月20日、21日、ソウルの「韓国教会100周年記念館」を会場に開かれた。2004年から始まったこのセミナーは、今年で10年目を迎え記念すべき会であった。

韓国側からPCKの異端似而非対策委員会関係者や弁護士等24名、日本側から教団の統一原理問題全国連絡会関係者および統一協会問題キリスト教連絡会関係者、全国霊感商法対策弁護士連絡会の弁護士、統一協会問題被害者とその家族など24名が参加した。

20日の第一講演では、釜山長神学大学卓志一(タク・ジイル)教授より韓国における異端の現状について、

なる活動であるとのこと

2日目の講演者は埼玉蔵氏で「横浜訓盲学院」の設立に関係した明治の宣教師等の働きをとり、今村幾人氏に受け継がれた訓盲院内部の生活指導に触れま

ちの足跡と自分の歩みを語り続れていることに建学の精神があり現在の礼拝と連

「近年の異端被害相談件数は、『神様(ハナム)の教会』、『新天地』という団体が『統一協会』を上回る傾向にある。また、従来は異端教会が既存教会の信徒を奪い取る形であったが、最近では教会がまるごと異端の標的になることもある」との報告がなされ、新たな異端組織への対策が急務であるとの考えが述べら

れた。同時に、異端は我々既存教会のキャンダルや内輪探めに敏感であり、あらゆる点を取り上げて『お前たちこそ異端だ』と批判してくる。異端対策のためには、まず我々既存教会がしっかりと立たなければならぬ」とも語られ、我々教団の歩みを鋭く問われたように思われた。

講演後の質疑応答では、コスタ(青年大会)に力を入れ青年を取り込む「ヨハンキリスト教会」への対策について日本側から質問が

あり、卓教授は「コスタを通しての伝道は韓国では主流な方法として受け入れられている。しかし、日本の文化、土壌を理解しない熱狂的な伝道は慎むべきである」との考えを述べた。



張田眞宣教委員長(左)、チェ・ギハク委員長(右)

した。会場には昭和初期の訓盲院出身者が数名おり活発な発言がありました。総会、修養会には高齢の参加者があり、多くのボランティアによって支えられました。

日本福音キリスト教会連合・本郷台キリスト教会と

「のあいインターナショナル・スクール」6年生、中学生、高校生、保護者が品川、蒲田、横浜の各駅に立ち、乗りの案内に奉仕されま

した。教団横浜大岡教会は事務局としてばかりか集会に参加されての支援でした。教団神奈川教区の教会は献金とボランティア派遣で協力してくれました。

開催の運営は神奈川友愛信徒会(視覚障害信徒会)でした。

翌21日は、異端問題に関する報道を積極的に行つて



林 容子さん

神の召しは素晴らしい



1930年青森市に生まれる。'76年、青森長島教会にて受洗。現在、青森戸山教会長老。

もし自分が83歳になったら、そう聞かれてみなさんはどう思われるだろうか。わたしであれば教会に行くのが精一杯、後期高齢者だから、という言葉で口にして、つい教会に足を運ぶのが億劫になっている自分を想像してしまう。

林容子姉は今年その歳である。誰よりも教会に早く来られ、誰よりも最後に教会から帰って行かれる。とにかく教会が好き、人と話すのが好き、そして礼拝が大好きな方である。

少々持病はお持ちであるが、元気で、ご自分でも「わ(私)は、幸せだ」と仰るが、しかし、その歩みは人から見れば決して楽なものではなかった。27歳で結婚、28歳で長男美土

里さん、31歳で次男慎也さんを出産。2人ともウェルドニッヒ・ホフマン病だった。この病気は育髄性筋萎縮症の一種で、出生後まもなく筋力の低下が見られ、成長と共に全身の筋力が低下し車椅子等の使用が必要となる。さらに平均的な寿命は5歳にも満たない。

そんな中でも慎也さんは12歳で召され、美土さんはこの難病の方としては奇跡的に25歳という年齢まで生き、召されていた。

2人の息子と夫、宏さんを癌で亡くされ一人になった時、「これからは人のためになろう」と決める。これまで子どもたち

総幹事室に押し寄せる教団の諸課題はいつも重く且つ難渋だ。最近の主なもの、①「日本キリスト教会館」問題。建物は7階だが、鉄骨は3階までで、仮に、3・11級の地震が起きれば4階出版局、5階年金局等職員の名の保障はない。このため早稲田奉仕園が協力を申し出られ、アパコとの調整を進める。②2004年に解散した「日北米宣教協力会(JNAC)」の諸ボードとのパートナー等のある方等問われている。それらを適正なものとするため、常議

総幹事室から

は近い将来これら諸ボードの宣教協約等新たに結ぶため備えて行きた。③教団職員組合との特に夏冬二次募金」のその後の行方と実情が、今春兵庫教区総会報告書が送付されて初めて明らかにされ、今後の目処が7月常議員会で立てられた。⑤沖縄教区との絆を絶やさぬことは全教団の祈りである。これまで教団は沖縄教区の教団負担金と教区活動連帯金・沖縄宣教連帯金を相殺していたものから、戴くものは戴き、送金すべきは送金した所、沖縄教区は昨年度の責任を果たされたことに希望を持っている。(教団総幹事 長崎哲夫)

(吉岡恵生報)